

最終評価シート

最終評価（表紙）

鶴岡市 歴史的風致維持向上計画（平成25年11月22日認定） 最終評価（平成25年度～令和4年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進	3
II 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援	4
III 歴史的建造物周辺環境の整備	5
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 外国人観光客の増加	6
ii 住民主導による歴史的資源の周知活動の推進	7
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 宿坊街まち並み保全及び修景整備促進事業	8
B 史跡内及び周辺修景整備事業	9
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 旧庄内藩主酒井氏と荘内大祭にみる歴史的風致	10
2 藩校致道館の教学精神にみる歴史的風致	11
3 出羽三山神社と祭礼にみる歴史的風致	12
4 門前町手向地区と出羽三山参りにみる歴史的風致	13
5 松ヶ岡開墾場と地縁団体の活動にみる歴史的風致	14
6 鶴岡天満宮と天神祭にみる歴史的風致	15
7 七日町観音堂と師走の御歳夜にみる歴史的風致	16
8 鶴岡絹産業と絹関連工場にみる歴史的風致	17
■ 庁内体制シート（様式6）	18
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	19
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	20

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	旧庄内藩酒井氏と荘内大祭にみる歴史的風致	I, III	
2	藩校致道館の教学精神にみる歴史的風致	I, II	
3	出羽三山神社と祭礼にみる歴史的風致	I, II, III	
4	門前町手向地区と出羽三山参りにみる歴史的風致	I, II, III	
5	松ヶ岡開墾場と地縁団体の活動にみる歴史的風致	I, II, III	
6	鶴岡天満宮と天神祭りにみる歴史的風致・	I, III	
7	七日町観音堂と師走の御歳夜にみる歴史的風致	I, III	
8	鶴岡絹産業と絹関連工場にみる歴史的風致	II	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進		
II	歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援		
III	歴史的建造物周辺の環境整備		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	外国人観光客の増加		
ii	住民主体の歴史と魅力あるまちづくり活動の推進と景観の保全推進		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	宿坊街まち並み保全及び修景整備促進事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	鶴岡公園園内整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

指定文化財建造物は、所有者の経費負担が大きいことなどにより、保存修理が計画的に進捗していない状況にあり、未指定文化財は、建造物所有者の高齢化や後継者不足のほか、指定文化財同様経費負担等の理由から、消失や損傷が進行している。また、市域全体の歴史的建造物に関する総括的な調査や研究が十分に行えていない。

指定文化財については、引き続き補助金等を活用して所有者の負担軽減を図り、適切にその保存継承と活用を図っていくものとし、未指定文化財についても、調査による状況把握に努め、歴史的風致形成建造物等への指定・支援も含め、文化財所管関係機関等と連携し、保存継承と活用に努めていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	重要文化財旧鶴岡警察署庁舎保存修理事業	半解体修理工事	あり	H25-H29
2	市指定有形文化財大寶館整備事業	部分修理(屋根・内装)工事 展示・休憩施設の整備	あり	H29-H30 R3
3	史跡松ヶ岡開墾場保存修理事業	部分修理(屋根・内装)工事	あり	H10-R4
4	蚕室群活用整備事業	企画展・講演会実施、映像展示・ 音声ガイド・体験施設の整備	あり	H27-R4
5	歴史的風致形成建造物保存活用整備補助事業	指定8件、うち補助交付5件	あり	H28-R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・重要文化財旧鶴岡警察署庁舎保存修理事業

市指定有形文化財大寶館整備事業

史跡松ヶ岡開墾場保存修理事業

国・県指定文化財の保存修理事業は、国・県の補助事業として実施した。

市指定有形文化財大寶館整備事業は、社総交事業として実施した。

・蚕室群活用整備事業

松ヶ岡開墾場の歴史的建造物の活用方針について検討を重ね、文化庁との協議を経ながら活用整備を進めてきた。具体的には、2番蚕室2階を会場として、H30年2月、日本遺産をテーマに講演会を開催、同年3月には、西郷隆盛と庄内藩との交流をテーマとした企画展示を初開催し、蚕室の公開活用を図った。また、H31年4月に1番蚕室「松ヶ岡開墾記念館」の史料展示に加え、映像展示、音声ガイドの導入など、歴史文化を継承する環境を整備した。さらに、令和3年度に、4番蚕室を本市近代化の礎となった絹産業の文化を発信する体験施設として、また、5番蚕室を蚕室特有の建築構造見学施設として整備事業を実施し、絹産業体験ワークショップやにぎわい創出イベントを実施し、蚕室群を活用した啓発と理解醸成を図った。

・歴史的風致形成建造物保存活用整備補助事業

歴史的風致形成建造物についての修繕補助制度をH28年から制定し、これまで8件の指定を行い、5件の保存修理と活用の推進を図り、歴史的価値の高い建造物の消失防止と施設の公開を行った。



旧鶴岡警察署庁舎外景
(修理前 平成25年)



同上(竣工 平成30年)



松ヶ岡開墾場4番蚕室
「シルクミライ館」

④ 自己評価

補助金を活用した重要文化財の大規模修繕により、貴重な歴史財産の保全が行われた。また、歴史的風致形成建造物等の修復助成と施設整備により、その消失を防ぐとともに、歴史的建造物の活用が図られた。

⑤ 今後の対応

今後も継続して、補助金制度を活用した歴史的建造物の保存修理への支援とその活用を関係省庁や関係機関、建造物所有者と連携して実施していく。また、未指定文化財等についても、各地域に点在する調査を行い活用可能性や修繕の必要性等の状況把握に努め、歴史的風致形成建造物への指定や保存伝承、活用に努める。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
方針	Ⅱ 歴史・伝統を反映した人々の活動 に対する支援	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史の中で人々の手によって大切に培われてきた民俗芸能などの伝統文化は、少子高齢化の一層の進展や地域の歴史や伝統文化への関心の希薄化により、担い手や後継者不足といった様々な問題を抱えており、地域の活性化につながるような伝統文化の継承方法が課題である。

民俗芸能・伝統行事については、その歴史や変遷を把握し記録保存に努めるとともに、保存団体等と連携して補助金等を活用し、後継者の育成や団体同士のネットワーク化など地域の活性化につながる継承を支援する。また、伝統産業は、技術の伝承・後継者育成・伝統技術を活かした商品開発を通じて、経済活動を促進する環境整備を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への 位置付け	年度
1	門前町歴史まちづくり活動支援事業	出羽三山魅力発信協議会（ガイド育成講座、街歩きツアー、黒板塀塗り等の活動）にこれまで計9回支援	あり	H25-R4
2	松ヶ岡振興支援事業	松ヶ岡地域振興会議（桜まつり、雪灯籠まつり、マルシェ、茶摘み体験等の活動）にこれまで計9回支援	あり	H25-R4
3	シルクタウンプロジェクト推進事業	産業面と文化面から振興策に取り組み、「ものづくり」「ひとづくり」「普及啓発」の各分野にこれまで計9回支援	あり	H23-R4
4	民俗芸能保存伝承支援事業	高寺八講保存会、黒川能保存会、山五十川古典芸能保存会等にこれまで計9回支援	あり	H18-R4
5	歴史的風致維持向上計画啓発事業	酒井家庄内入部400年記念式典 講演会、座談会などの啓発事業に約1,000人参加	あり	H25-R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・民俗芸能保存伝承事業

民俗芸能の保存継承のため、保存継承団体の活動に対して補助金を交付し支援したほか、（一財）丸高歴史文化財団の助成を保存継承団体に周知し、令和元年度は3件、令和2年度は2件、令和3年度は1件、令和4年度は1件採択となっている。また、民俗芸能保存団体情報交換会を開催し、各団体の相互交流を通じた活動の存続と発展のための意見交換を行ったほか、鶴岡市民俗芸能交流発表会を開催し、担い手のやりがいの場の創出を図った。令和3年度は、「地域伝統芸能等保存事業」（（一財）地域創造）の助成を受け、未記録の無形民俗文化財（六所神社の獅子舞）を映像記録として保存した。

・シルクタウンプロジェクト推進事業

絹産業の文化を保存継承しながら、新たな産業振興と絹文化の創造・発展を目指すため、産業面と文化面から振興策に取り組み、「ものづくり」「ひとづくり」「普及啓発」の各分野で事業を展開した。

○ものづくり…キビソ等鶴岡シルクのブランド化・販売促進（鶴岡織物産地振興事業）

○ひとづくり…養蚕復興（養蚕環境整備事業）

○普及啓発…蚕飼育体験、蚕室での蚕展示飼育、市内高校生がシルクをテーマとして取り組む研究活動へ支援。



丸高歴史文化財団助成決定団体
「大山いざやまき保存会・キッズ華の会」



シルクノチカラ2022



酒井家庄内入部400年記念式典

④ 自己評価

地域に根差す民俗芸能の情報発信及び保存継承団体への支援を行うことにより、地域の伝統文化への市民の関心が高まっている。また、各関係機関等との連携により、その文化継承の取り組みが拡充した。

⑤ 今後の対応

今後とも地域・教育機関等と連携し、既存の取り組みの継続と拡充、民俗芸能等の啓発に努め担い手のやりがい創出と市民への周知と理解醸成をさらに進め、文化継承の地盤を作っていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
方針	Ⅲ 歴史的建造物周辺の環境整備	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的建造物が多く点在しているため回遊性に乏しく、市民や来訪者が歴史的風致を感じながら散策できる歩行者ネットワークの形成が課題となっている。また、宿坊街では生活環境の変化による建て替えが進んだことで街なみの連続性が欠け、その趣が失われつつある。

歴史的建造物周辺の環境整備については、地域性や歴史的な趣や景観に配慮し、統一感のある街並み形成を図るように努めるとともに、安全で快適に周遊できるネットワークの形成を図る体制整備を行う。また、多様な公共施設のほか事業主体との連携による空き地、空き家を活用した休憩施設の整備、市民・来訪者の回遊性の向上や良好な住環境の整備を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	鶴岡公園内堀周辺道路修景事業	H29基本計画策定、H30実施設計、R1～R4無電柱化 下排水施設整備・道路の美化等工事	あり	H29-R4
2	鶴岡公園園内整備事業	H29基本計画策定、R3実施設計、R3～R4正面広場整備 工事（広場整備・四阿整備）	あり	H26-R4
3	宿坊街まち並み保全及び修景整備促進事業	H29～街並み修景助成（39件）	あり	H26-R4
4	宿坊街道路・空き地修景整備事業	R2散策休憩施設整備1件	あり	H26-R4
5	史跡内及び周辺修景整備事業	H27～H30 広場・駐車場・トイレ整備 R3～R4 史跡周辺修景整備（通路・広場整備）	あり	H27-R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・鶴岡公園内堀周辺道路修景事業

内堀周辺道路（市道鶴岡公園新形町線）において、令和元年度に電柱移設等による無電柱化、令和2年度から下排水施設の整備と道路の美化（路面着色・街路灯や交通標識等設置・ベンチ設置・道路横断部の石張舗装等）を実施した。この整備により、歩行者の安全確保のほか、鶴岡公園周辺の歴史的景観に配慮と回遊性の向上に寄与した。



内堀周辺道路修景整備

・宿坊街町並み保全及び修景整備促進事業

羽黒手向地区の道路に面する建物や土塁、生垣など、宿坊街の佇まいを感じさせる特徴的な構造物について、統一感のある修景整備を行う住民に対して助成を行い、良好な街なみ形成の促進が図られた。

・史跡内及び周辺修景整備事業

認可地縁団体、有識者等との協議により、松ヶ岡開墾場の駐車場、トイレ、広場、場内通路等を整備し、来訪者の利便性が高まるとともに、歴史的景観の一体的な修景整備が図られた。

松ヶ岡開墾士住宅（新微屋敷）は、復元工事をH30年から実施し、R1年からは日本遺産インフォメーション機能をもつ施設として公開活用されている。また、令和3年度から施設周辺の通路・広場の整備を行い、令和4年度に工事が完成し、松ヶ岡開墾場周辺の回遊性の向上と住環境が整備された。



松ヶ岡開墾周辺修景整備
（通路・広場整備）

④ 自己評価

散策休憩施設や案内サイン、道路修景整備、道路の無電柱化等により、歩行者ネットワークの環境整備が図られ、来訪者の回遊性が一定程度向上するとともに、安全・快適な歩行者空間の整備が図られた。

⑤ 今後の対応

今後も地域固有の歴史的・文化的資源を保全し、歴史的景観に配慮した公共施設等の修景整備やまちなみ修景整備を継続し、更なる回遊性向上と良好な住環境の整備を行っていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
効果	I 外国人観光客の増加		

① 効果の概要

外国人延べ宿泊者数が、H25年と比較してR1年は4.7倍に増加している。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	中心市街地活性化基本計画	あり	H30-
2	鶴岡市中期観光振興戦略プラン	なし	H30
3			

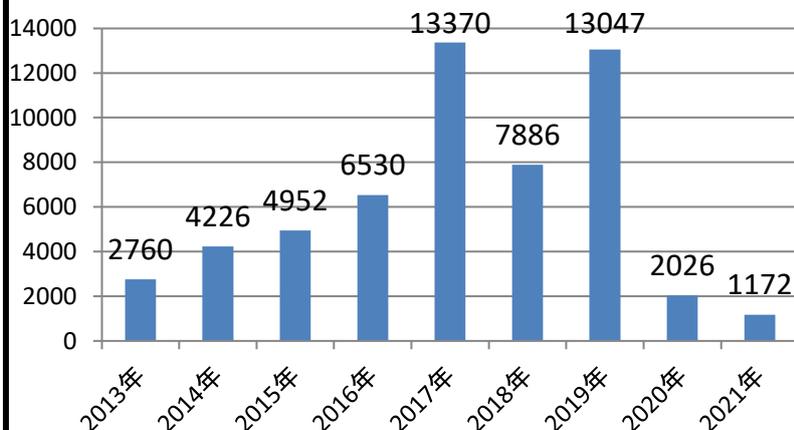
③ 効果発現の経緯と成果

外国人延べ宿泊者数については、計画認可を受けたH25年(2013年)は2,760人であったが、以後毎年増加傾向にあり、R1年(2019年)においては13,047人と約4.7倍の増加となっている。

外国人観光客に対しては、文化財及びその周辺地区の施設整備のほか、市観光担当課・観光協会・観光施設等によるトップセールスや多言語のホームページ・観光パンフレットの作成、無料Wi-Fi設置など受け入れ体制の整備が図られてきた。

また、案内サインについては、多言語表記のほかに、説明文書などについては外国人にわかりやすいよう翻訳にも配慮したサインの設置のほか、松ヶ岡開墾場4番・5番蚕室では多言語化に対応した施設を整備するなど、外国人観光客の誘客を図った。

これら歴史的風致維持向上事業等を通して、市内外への情報発信と啓発により、リピーターの増加も踏まえた外国人観光客増加の成果と考えている。



鶴岡市における外国人延べ宿泊者数の推移(人泊) ※観光庁「宿泊旅行調査」より
 ※2017年は前後の年度と比較して大きな乖離があるが、観光庁でも要因は不明。
 2020年・2021年はコロナ禍により大幅に減少した。



羽黒松ヶ岡地区総合案内サイン



松ヶ岡開墾場4番蚕室「シルクミライ館」

④ 自己評価

歴史的風致維持向上事業や日本遺産認定による知名度向上等により、外国人観光客が大幅に増加した。

⑤ 今後の対応

コロナ禍により外国人宿泊者数は減少しているものの、引き続き、街なみ修景に対する支援や歴史的建造物及び周辺施設の環境整備を実施し、良好な歴史的景観の形成を図るとともに、公共施設等の整備のほか、松ヶ岡開墾150年、酒井家入部400年の記念の年を契機とした啓発事業や各団体活動への支援、主催事業等を通じて、更なる外国人観光客の増進を実現していく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
効果	Ⅱ 住民主導による歴史的資源の周知活動の推進		
① 効果の概要 住民主体の歴史と魅力あるまちづくり活動の推進と景観の保全推進			
② 関連する取り組み・計画			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	中心市街地活性化基本計画	あり	H30-
2	都市再生整備計画	あり	H23-
3	景観計画	あり	H20-
③ 効果発現の経緯と成果			
○地域住民による歴史的景観の保全と継承の取り組み			
<p>羽黒手向地区の街なみ修景整備に併せて、地域住民が中心となり、黑板塀の塗り替え作業、来訪者のための休憩用ベンチづくり、宿坊街提灯ロードなどの新たな魅力づくりなどが行われ、令和3年度には、手向地区自治振興会が第17回住まいのまちなみコンクールで「住まいのまちなみ賞」を受賞するなど、歴史的景観の保全・承継に対する住民意識がさらに高まった。</p> <p>また、出羽三山魅力発信協議会では、手向ガイドブックol.1～vol.4を発行し、SNSを活用した情報発信も行い、市内外に出羽三山を中心とした手向地区の魅力を広く発信した。</p>			
 <p>令和4年1月15日付 荘内日報1面</p>			
○鶴岡市景観計画の改定			
<p>平成20年に策定した「鶴岡市景観計画」は、策定後も少子高齢化や人口減少の進展などの社会情勢の変化のほか、風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギー導入に際する歴史的・文化的資源との調和や地域住民の合意等といった課題が生じている。これらに対して、歴史的風致維持向上計画における重点区域であり、日本遺産にも認定された羽黒手向地区・羽黒松ヶ岡地区における対象行為等に関して地域と連携し協議を重ね、</p>			
<p>本市固有の歴史的景観資源を保全し後世へ継承するため、令和5年4月からの改定に向けて協議を重ねている。</p>			
④ 自己評価			
<p>住民が主体となり行政と連携した歴史と魅力あるまちづくりの活動が行われたことにより、地域住民の理解醸成と市内外への情報発信、文化財等を中心とした歴史的・文化的資源の保全と後世へ継承に向けた取り組みが進んだ。</p>			
⑤ 今後の対応			
<p>各地域固有の歴史的・文化的資源が保全・維持され、住民が主体となり、また、住民と行政等が一体となった取組みを今後も引き続き継続していく。また、これらの資源を保全維持し、活用することにより、より魅力あるまちづくりを支援し、良好な住環境の整備と地域の活性化、市街地の賑わい創出につなげていく。</p>			

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H26～R4年
取り組み	A 宿坊街まち並み保全及び修景整備促進事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>羽黒手向地区の宿坊街まちなみ保全及び修景整備促進事業については、H26年度より修景整備に係る基準作成を進め、H27年度～H28年度には地区住民がまちなみ保全に関するまちづくり協定を策定。H29年度は「門前町手向地区まちなみ景観形成事業」補助金制度を創設し、本制度により、手向地区宿坊街固有の景観に調和した住居・車庫等の建造物や門・塀の外構などの修景整備が行われ、統一感のまちなみが形成され歴史的風致の維持向上につながった。</p> <p>○修景整備実績件数 39件 H29年度 6件、H30年度 7件、R1年度 6件、R2年度 6件、R3年度 7件、R4年度 7件</p> <p>○修景整備事例</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  <div style="margin: 0 20px; font-size: 2em;">➔</div>  </div> <p style="text-align: center;">整備前整備後</p> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">住居・車庫の外壁整備</p> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">門・塀の整備</p>			
<p>② 自己評価</p> <p>現代の生活様式に合わせて変化した住居・車庫・外構等の修景整備を行うことで、手向地区宿坊街のもつ歴史ある佇まいやまちなみの連続性が生まれ、歴史あるまちなみの保全と魅力の向上につながった。事業実施にあたり、有識者や地域団体代表者からなる手向まちなみ委員会を開催し、申請案件毎に整備内容について審査・検討を重ね、必要に応じ相談会を開催するなど、効果的に整備をすすめることができた。</p> <p>また、修景整備に併せて、住民が中心となり黒板塀の塗り替え作業、来訪者のための休憩用ベンチづくり、新たな魅力づくり(宿坊街「提灯ロード」)などが行われ、景観の維持・保全や歴史的風致を活用したまちづくりに対する住民意識が高まり、令和3年度においては、第17回住まいのまちなみコンクールで「住まいのまちなみ賞」を受賞した。</p>			
外部有識者名	山形大学名誉教授 野堀嘉裕		
外部評価実施日	令和5年2月21日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>H29年度に創設された「門前町手向地区まちなみ景観形成事業」補助金制度は令和4年度までに合計39件の実績をあげている。審査にあたるのは有識者や地域団体代表者からなる「手向まちなみ委員会」であり、修景整備計画の検討を行っている。現代の生活様式に合わせて変化した住居・車庫・外構等の修景整備を行ってきたが、連続性と統一感のある街並み形成が歴史的風致維持向上につながっている。また住民が中心となり、黒板塀の塗り替え作業、来訪者のための休憩用ベンチづくり、新たな魅力づくり(宿坊街「提灯ロード」)などが行われた成果が実を結び、令和3年度第17回「住まいのまちなみ賞」を受賞したことは高く評価される。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>今後も、手向地区宿坊街の小路に多く残されている石垣や土塁、黒板塀など、各集落における特有の景観を維持・保全しながら、歴史的風致の向上につながるよう継続して修景整備を推進する。</p> <p>また、地域住民との意見交換や地域協議会の活動を支援しながら、宿坊街における歴史的な景観と街なみを形成と保全を図っていく。</p>			

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
取り組み	B 鶴岡公園園内整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>鶴岡公園整備基本計画に基づき、旧鶴ヶ岡城二ノ丸に位置し、猿舎、禽舎があった箇所を鶴ヶ岡城址公園のシンボルとして、歴史的風致・風格のある市民や観光客が憩いくつろぎ、賑わいのある広場整備を行うため、鶴岡公園環境整備懇談会、市民ワークショップ等を開催し、正面広場整備計画を策定した。</p> <p>平成30年に基本設計を行い、同計画策定後も鶴岡公園環境整備懇談会や市民ワークショップ等を開催しながら意見交換を重ね令和3年度に測量及び実施設計を行い、令和3年度から正面広場及び四阿の整備工事を実施し、令和4年度に完了した。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>全景整備後</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>四阿周辺整備前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>四阿整備後</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>広場周辺整備前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>広場整備後</p> </div> </div>			
<p>② 自己評価</p> <p>鶴岡公園は明治9年に政府が鶴ヶ岡城址（本丸及び二ノ丸）を公園に定め、大部分の土居を崩し堀を埋め、本丸の土居と堀の一部は残して城を解体して公園を整備したものである。これらを忠実に復元することはできないものの、築城に使用されていた金峯石を活用と当該地が鶴ヶ岡城の堀に当たることから、往時を偲ばせる広場として整備している。</p> <p>鶴岡公園環境整備懇談会や市民ワークショップを数多く重ね、市民等の意向も踏まえて検討し、文化財関係専門家・所管課や歴史的風致維持向上計画推進にも携わってきた有識者（早稲田大学名誉教授、研究員等）とも協議を重ね整備事業を進めてきた。</p> <p>施設の整備に当たっては、鶴岡公園内にある荘内神社・鳥居、市指定有形文化財の大寶館などの景観も配慮し、新たなシンボル公園として多くの市民が集える場となっている。</p>			
外部有識者名	山形大学名誉教授 野堀嘉裕名誉教授		
外部評価実施日	令和5年2月21日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>明治9年に政府は鶴ヶ岡城を解体した。多くの土居は崩され堀が埋められた後、公園として整備されてきた鶴岡公園は、本丸の土居と堀の一部が残されている。築城に使用されていた金峯石は公園内に点在しており、典型的な歴史サインとして活用が進められている。これまでに、鶴岡公園環境整備懇談会や市民ワークショップが多数開催されており、文化財関係専門家・所管課や歴史的風致維持向上計画推進に携わってきた有識者らとの協議も数を重ねてきた。また、愛称の公募も行われ、市民等の意向も踏まえた公園整備は、新たなシンボル公園として多くの市民が集える場となることが期待される。なお、公園に隣接する県道整備の際に出土した鶴ヶ岡城跡馬出遺構の活用は今後の課題といえる。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>平成25年以降、公園内園路・参道・公園入口の整備、城址公園内トイレ改修工事などを行い、令和4年度に正面広場の整備工事が完了したが、公園に隣接する県道整備の際に出土した鶴ヶ岡城跡馬出遺構の活用を検討し整備を進めていく。他関係事業も合わせて事業を進めながら、令和4年度に酒井家庄内入部400年を迎えたことを契機とし、市民から愛される場、観光拠点として今後も協議を重ねていく。</p>			

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
歴史的風致	1 旧庄内藩主酒井氏と荘内大祭にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 Ⅲ 歴史的建造物周辺の環境整備		

① 歴史的風致の概要

旧庄内藩主酒井家は元和8年(1622)に山形の最上家改易後庄内藩13万8千石の領主として入部し、近代まで当地方の領主として治めた。近代になり酒井家を慕う有志が鶴ヶ岡城の跡に荘内神社を建立した。明治10年(1877)にこの荘内神社建立記念祭典の一環として往時を偲ぶ大名行列が再現され、以降、神社の例大祭の中で続けられてきた。昭和52年(1977)には鶴岡ふるさと祭、平成3年(1981)には現在の荘内大祭と名称を変えている。

② 維持向上の経緯と成果

●鶴岡公園内整備事業

平成25年～26年整備では、施設利用者の負担軽減と安全安心に利用できる公園整備を目指し、砂利敷きの園路のバリアフリー化、石張舗装や透水性舗装、駐車場整備などを実施した。令和元年～4年においては、歩行者の安全確保と周辺に点在する歴史的建造物の回遊性向上を図るため内堀周辺道路の無電柱化と道路の美装化を行ったほか、憩いとやすらぎの場として市民が交流できる正面広場の整備を行った。

これらの整備により、春はさくら100選にも選定されている園内の桜や5月の天神祭り、荘内大祭などが開催される時期においては、昼夜を問わず庄内藩主酒井家を背景とする歴史の融合が感じ取れる景観を楽しんでいる利用者が数多くみられるなど、城址公園として歴史的風致の維持向上に寄与している。

●市指定有形文化財大寶館整備事業

大寶館は、大正4年(1915)に大正天皇の即位を記念して建設された本市を代表する洋風建築物で、現在は市の郷土人物資料館として市民や来訪者に親しまれている。

平成29年～30年では、施設の外壁塗装・木製建具改修・瓦屋根全面改修・ドーム補修及び塗装を実施し、令和3年度は、鶴岡公園の利用者が休憩等のために大寶館に訪れ、天候や季節を問わずにくつろぎ、多世代交流の場となるよう整備を行った。

これらの整備により、市民からも親しまれる鶴岡公園の内堀沿いに美しく佇む洋風建築が保全・活用されている。



内堀周辺道路修景整備



正面広場整備



大寶館 活用整備

③ 自己評価

荘内大祭大名行列コース沿線に位置する重要文化財等の保全と活用を進めることにより、旧庄内藩主酒井氏を背景とする歴史的風致の維持が図られた。

④ 今後の対応

関係省庁や関係機関等と連携を図り、数多く現存する文化財を中心とした歴史的建造物の保全・維持とその活用を図り、歴史的維持の維持と向上に努めていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
歴史的風致	2 藩校致道館の教学精神にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 II 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援		

① 歴史的風致の概要

旧致道館は、文化2年(1805)に徂徠学を教学の中心とする藩校として設立され、現在地には文化13年(1816)に移設された。当初は聖廟・神庫・御入りの間・講堂・養老堂・会業の間等の諸施設があったが、現在は聖廟・講堂・御入りの間と表御門と二つの門が残る。致道館教育の解説は主に講堂で展示され、今は失われた養老堂や句読所の建物は屋外に平面表示されている。

現在、市民有志による致道館文化振興会議の指導の下、旧致道館で小学生を対象とした論語の素読体験等が行われており、幼少期から致道館の教学精神に触れている。このように、藩校致道館の教学の精神は人々の心の中に残り、継承されている。

② 維持向上の経緯と成果

● 致道館教学の継承への取組み

致道館教学の伝統は、(公財)致道博物館及び致道館振興会議で毎年実施している「少年少女古典素読教室」に引き継がれ、市教育委員会も共催となりその活動を支援し、昭和43年(1968)から50年以上にわたり今も続いている。また、平成24年度より『親子で楽しむ庄内論語』を刊行、市内の全小学校に配布しており、校外学習の一環で致道館についての学習、旧致道館での『庄内論語』の素読学習を実施している。加えて、平成30年度からは、「親子で文化財を巡ろう」見学会を実施し、旧致道館では親子で素読体験学習を行い、致道館教学の裾野を広げ、現在もその活動は続いている。



見学会の様子

● 歴史的風致形成建造物の修理・保存活用への取組み

明治中期、廃藩置県により廃校となった致道館に代わり、「御寄合」と称する儒教の講義が旧藩主酒井家私邸「御隠殿」で行われていた。平成30年度に、傷んでいた屋根等の外観修景と内装は歴史的風致形成建造物保存活用整備補助事業により整備し、歴史的収蔵物の展示場として多くの来訪者を迎えている。



御隠殿 屋根瓦外観修景後

● 歴史的風致の市民周知への取組み

平成28年度において、歴史まちづくりシンポジウムを旧致道館内で開催し、100名を超える参加者が市内外から来訪した。文化財の館内で開催することにより、実際に文化財の魅力や歴史的風致に触れることができ、テーマであった歴史的建造物の保存活用についての市民の理解や周知がより進展した。



歴史まちづくりシンポジウム

③ 自己評価

致道館の教学精神は、幼少期から触れてもらうことで歴史的風致維持の土台となっている。また、致道博物館内にある御隠殿は、老朽化が目立っていた茅葺屋根や外壁の外観修景を施すことにより、魅力ある観光資源としての価値が高められ、人々の手により今も継承されている。

④ 今後の対応

今後も史跡旧致道館の建物群と敷地の維持に努め、施設の公開による市内外への情報発信、教育機関や観光担当部局等と連携し、歴史的風致維持の維持と向上に努めていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
歴史的風致	3 出羽三山神社と祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 II 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援 III 歴史的建造物周辺の環境整備		

① 歴史的風致の概要

鶴岡市羽黒町手向地区は、出羽三山（羽黒山・月山・湯殿山）参詣の道者で栄えた門前町である。羽黒山には修験道と結びついた祭礼行事が数多く継承されており、「春山の行」「花まつり」「八朔祭」「松例祭」といった農耕に関する独特の祭礼行事の他、修験者たちが山中奥深くに分け入り、新たに生まれ変わるという「擬死再生」の思想が息づく荒行「秋の峰」が行われている。

このように、修験道が地域と深く結びつき、数多くの信者、参詣者を迎えるとともに、人々の安寧な暮らしを祈りながら固有の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

●重要文化財羽黒山正善院黄金堂保存修理並びに防災事業

宿坊街の景観の向上に寄与する施設である羽黒山正善院黄金堂について、平成26年度に銅板屋根の全面葺き替えを実施した。また、平成26年度に避雷設備パンザマスト、平成27年度には放水銃を設置し、防災設備を整備した。



黄金堂銅板屋根葺き替え

●景観整備事業

平成30年度には、住民ボランティアにより羽黒地域の木材を使った休憩用のベンチを2台製作した。また、地域住民が中心となり、黒板塀の塗り替え作業、来訪者のための休憩用ベンチづくり、宿坊街提灯ロードなどの新たな魅力づくりなどが行われ、令和3年度には、手向地区自治振興会が第17回住まいのまちなみコンクールで「住まいのまちなみ賞」を受賞するなど、歴史的景観の保全・承継に対する住民意識がさらに高まった。



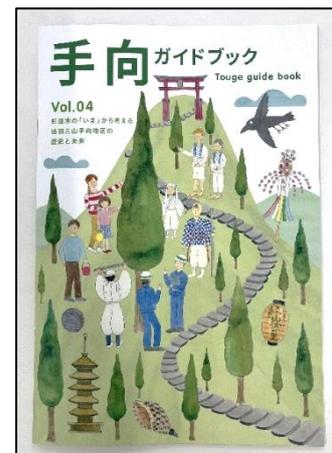
随神門前ポケットパーク
手向門前市

出羽三山魅力発信協議会では、手向ガイドブックol.1～vol.4を発行し、SNSを活用した情報発信も行い、市内外に出羽三山を中心とした手向地区の魅力を広く発信している。

令和2年3月に完成した随神門前ポケットパークや蝦夷館公園でマルシェイベント「手向門前市」を開催するなど、地区の魅力を生かした地域主体の取り組みが積極的に行われている。

●天然記念物羽黒山スギ並木の保全と活用

出羽三山魅力発信協議会と手向地区自治振興会は、国の特別天然記念物に指定されている羽黒山スギ並木の保全をテーマにした講演会を開催し、羽黒山スギ並木と参道の歴史的景観の保全・承継に対する住民意識の高揚と取り組みを行っている。



手向ガイドブックvol.4

③ 自己評価

重要文化財の保存修理等により、歴史的建造物の保存が図られるとともに、地域住民が主体となった活動により、歴史的・文化的資源の活用と良好な景観が形成され、風致の維持と魅力の向上に繋がった。

④ 今後の対応

歴史的風致維持向上計画の重点区域であり日本遺産の一つに認定された手向地区門前町において、今後も宿坊街の歴史的な街なみを楽しみ、地域の祭礼行事をはじめとした伝統文化が継承されるよう学びの機会の提供や人材（後継者）育成の支援に取り組んでいく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
歴史的風致	4 門前町手向地区と出羽三山参りにみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 II 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援 III 歴史的建造物周辺環境の整備		

① 歴史的風致の概要

鶴岡市羽黒町手向地区では、各地から訪れる道者を宿坊でもてなし、出羽三山に導くといった人々の暮らしが今でも生業として営まれている。また、全国的に数多くある修験道の山の中で、今も山伏が霞場を持ち布教活動を行っているのは手向地区だけである。

宿坊に限らず、一般の家にも冠木門や石垣、黒板塀等が残されているなど、深い山岳信仰と強く結びつきながら固有の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

●宿坊街まち並み保全及び修景整備促進事業

平成27年～28年度には、住民によるまちなみ景観の維持・保全を目的とした「まちなみ協定」が策定され、これを契機にして、平成29年度から道路に面する建物や門、生垣といった外構などを街なみと調和させるための修景整備を行い、歴史的な宿坊街の街なみ修景の整備に努めており、令和3年度までに39件の整備を実施した。



自坊小路電柱移設

●宿坊街道路・空地修景整備事業

黒い板塀や長屋門が現存する「自坊小路」について、平成29年度に景観を阻害していた電柱を移設したことにより、趣ある景観の形成が図られた。

令和2年度では、羽黒山の門前通り及び手向宿坊街の玄関口に位置する空き地スペースを活用し、休憩スペースやトイレが一体となった散策休憩施設（ポケットパーク）を整備した。当該ポケットパークを、羽黒山随神門と手向宿坊街・いでは文化記念館等をつなぐ起点となる場所に整備することで、観光地としての利便性や街なみ景観の向上、賑わいの創出が図られた。



散策休憩施設
羽黒山随神門前ポケットパーク

●門前町歴史まちづくり活動支援事業

門前町手向地区の10年後の目指すべき将来像を描くため、住民の手によるまちづくりビジョン（未来像）の策定を支援した。

また、出羽三山の魅力を伝える講演会や手向地区の歴史・文化を学ぶ講座を開催したほか、ガイドブックの製作、SNS等を通じて広く出羽三山や宿坊街の魅力の発信を行っている。

③ 自己評価

宿坊街の街なみの修景整備や無電柱化により、出羽三山神社の門前町手向宿坊街としての歴史あるまちなみの保全・形成につながり、歴史的風致の維持向上に寄与した。また、景観や歴史まちづくりに対する意識が高まり、散策休憩施設の整備に合わせてベンチ製作や提灯整備など自発的活動の実施といった波及効果が生まれた。

④ 今後の対応

引き続き宿坊街の街なみ修景整備事業に取り組むとともに、まちづくりビジョンに定める将来像の実現に向け、地域住民が中心となって実施する歴史的なまちなみの保全やにぎわいづくり、魅信等の取り組みに対して支援を行い、歴史的風致を活かしたまちづくりを推進していく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
歴史的風致	5 松ヶ岡開墾場と地縁団体の活動にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 II 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援 III 歴史的建造物周辺環境整備		

① 歴史的風致の概要

旧庄内藩士が開墾した松ヶ岡開墾場には明治初期に建設された本陣、蚕室等の歴史的建造物が往時の姿で残されている。また、開墾士達の末裔によって開墾記念式典、萱刈り、山仕舞などの伝統行事・作業が受け継がれているなど、有形・無形の歴史文化的価値が保存継承されており、固有の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

●歴史的建造物の保存と活用

歴史的建造物の活用と地域活性化を図る総合的なビジョンとして、地域住民、事業者等が議論を重ね平成26年3月に「松ヶ岡地域振興ビジョン」を策定した。また、松ヶ岡開墾場の本質的価値と構成要素を明確化、適切な保存管理と活用整備の推進を目的とし、文化庁等関係機関、史跡等の専門家、地元有識者から指導助言を頂き、平成31年3月に「国指定史跡松ヶ岡開墾場保存活用計画」を策定した。これらにより、広く地域住民、関係者に配布され歴史的風致を維持向上する意識が涵養された。



国指定史跡松ヶ岡開墾場
保存・活用計画策定委員会

●史跡及びその周辺施設の整備

歴史的建造物と景観の一体性、歴史的経緯との調和を図りながら駐車場、トイレ、広場、場内通路、歴史的風致形成建造物、サイン等を整備したほか、蚕室のリニューアル事業や通路・広場の整備を行うなど、地域特有の景観形成と利便性の向上、蚕室の活用が進んだ。また、平成10年度から蚕室等の保存修理工事を継続し、避雷針の設置等文化財の防災対策が充実した。



松ヶ岡開墾場周辺の通路整備

●史跡の価値を高める活用整備の推進

平成28年度に史跡内の一部の土地・建物を鶴岡市が取得し、松ヶ岡振興支援事業による四季のイベント実施、日本遺産魅力発信推進事業による企画展や展示リニューアルの実施、体験事業の企画、シルクタウンプロジェクト推進事業による蚕室での蚕の展示飼育など、松ヶ岡開墾場の魅力向上とそれに触れる機会が多様に創出され、歴史的風致への理解促進と来場者増加に寄与している。



松ヶ岡桜まつり&春の桜マルシェ

③ 自己評価

松ヶ岡開墾場の保存・活用整備方針として松ヶ岡開墾場保存活用計画が策定され、史跡を中心とする歴史的風致の維持及び向上に大きく寄与する環境が整った。

④ 今後の対応

「国指定史跡松ヶ岡開墾場保存活用計画」による保存と活用整備の指針に沿い、文化財としての価値を明らかにし、さらに高める調査研究を進めながら、歴史的建造物の保存と文化的価値に触れる機会を創出する。また、日本遺産に認定されたストーリーを軸に、関係する官公庁等の補助金等も活用し、地域や事業者が主体となった各事業の展開、史跡とその周辺の環境整備を進め、今後も継続して地域固有の歴史文化の継承発展に寄与する取組みを続けていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
歴史的風致	6 鶴岡天満宮と天神祭にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 III 歴史的建造物周辺の環境整備		

① 歴史的風致の概要

鶴岡天満宮の信仰から始まり、様々に形を変えて、市民の祭りとなった天神祭。鶴岡天満宮等の歴史的建造物を背景に、老若男女の化けものが無言で見物者に酒を振る舞いながら練り歩く風習が継承されている。

祭り当日は、菅原道真公行列、子どもみこし、踊りフェスティバルの行列が本市の辿ってきた歴史を物語っている建造物等が立ち並ぶ市街地の間を練り歩き、いつの時代も見物する人々を魅了している。

② 維持向上の経緯と成果

●歴史的風致形成建造物保存活用整備補助事業

天神祭にみる歴史的風致としては、本市の辿ってきた歴史を物語っている建造物を背景とし練り歩く風習である。回遊ルートにある三井家蔵座敷、旧小池薬局エビスヤビル、大寶館といった歴史的建造物を歴史的風致形成建造物として指定し、その修復支援を実施することを通じて消失の防止に努め、歴史的な街並みを維持している。



旧小池薬局エビスヤビル

●散策・休憩施設整備事業

祭りの回遊ルートの散策・休憩施設整備として、多目的交流広場(1,106㎡)を整備した。老朽化した市役所東庁舎解体後の跡地を活用し、散策・休憩する地域住民や観光客に向けた賑わいとくつろぎ、交流するための広場空間の一部と、駐車スペースや消雪設備、広場と駐車場の間仕切りとして、平成28年度は花壇の設置工事、平成29年度はインターロッキングブロックの設置、花壇への植樹、ベンチや案内板設置を実施し、天神祭りなどで周辺を回遊する際の利便性の向上や良好な街なみ景観の保全と環境の良化につながった。



大寶館と天神祭りパレード



多目的広場整備

③ 自己評価

天神祭の練り歩きや回遊ルートにある歴史的建造物等の修景整備と多目的広場の整備により、祭りの活性化と賑わいの創出が図られた。また、鶴岡公園周辺でも園内整備や大寶館の活用整備が行われるなど人々の活動と一体となった歴史的風致の向上が図られた。

④ 今後の対応

回遊ルートにある数多くの歴史建造物の保全と活用及び鶴岡公園内や内堀周辺道路の修景整備を実施しているが、今後も、伝統行事であり本市三大まつりに称される「天神祭」の趣のある歴史的情緒の構築を図っていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
歴史的風致	7 七日町観音堂と師走の御歳夜にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 III 歴史的建造物周辺の環境整備		

① 歴史的風致の概要

城下の町人町であった旧七日町（現在の本町二丁目）の観音堂に祀られている観音様（観世音菩薩尊像）の年末の縁日にあたる12月17日は、「お観音ハンの御歳夜」と呼ばれ、小路に面する境内で縁起物の「だるま市」が開かれ、年末の風物詩として親しまれてきた。裏小路にあるこの境内への道筋には、かつて割烹であった木造3階建の三浦屋や旧鶴岡ホテルなど歴史的建造物が現存しており、旧七日町の歴史的な趣を醸し出している。

② 維持向上の経緯と成果

●歴史的建造物保存対策調査事業

七日町観音堂周辺の歴史的建造物である旧割烹三浦屋や旧鶴岡ホテルの歴史的背景、建造物の意匠などを調査し、保存活用についての、所有者の意向検討を図った。

旧鶴岡ホテルでは平成28年度に歴史的建造物巡り、シンポジウムを開催したほか、平成30年度は第4回歴まちmeetingとして昼食会と意見交換会を開催した。旧割烹三浦屋については、歴史的風致形成建造物の指定を行ったほか、旧鶴岡ホテルについては内覧会等公開イベントを実施し、その保全に努めた。



だるま市

●まち歩きマップの作成

平成26年度、城址である鶴岡公園及びその周辺地区の歴史的建造物等への回遊マップを作成しており、この中にも七日町観音堂と周辺の歴史的建造物や小路の表示等、七日町観音堂・だるま市の歴史的風致の周知啓発を行っている。



旧鶴岡ホテル 建造物の歴史説明



歴史まち歩きマップ

③ 自己評価

七日町観音堂周辺の歴史的建造物の保存活用を行い、情緒ある小路や歴史背景の説明を表示したまち歩きマップの作成など、歴史的な風情の周知啓発が図られ、歴史的風致形成建造物の指定や歴史まちづくりに関する活動を通じ、趣のある良好な歴史的風致の維持向上が図られた。

④ 今後の対応

今後も、旧七日町周辺にある歴史的建造物について、歴史的風致形成建造物の指定や公開イベントへの支援、まちづくりの活動等により、建造物の消失防止と歴史的風致の維持向上を図っていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
歴史的風致	8 鶴岡絹産業と絹関連工場にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅱ 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援		

① 歴史的風致の概要

松ヶ岡開墾を端緒とする本市の絹産業の発展は鉄工業、金融業、教育など多方面に影響を与えながら、本市の基幹的産業として近代化をけん引した。現在も、養蚕、製糸、精練、捺染、縫製と絹織物生産一貫工程と技術が存続する国内唯一の地域である。また 松ヶ岡開墾場の蚕室をはじめ、昭和初期に建てられた精練工場が現存し、日本の近代化を支えた絹産業の原風景を体感することができる。

② 維持向上の経緯と成果

●絹産業の「ものづくり」と「ひとづくり」に係る取り組み

国内唯一の絹織物の一貫生産工程を活かし、国内のデザイナーや有名繊維産地と協働して商品開発を行い鶴岡シルクのブランド化が進められた。他繊維産地や高度な技術連携による鶴岡シルクの商品開発と松ヶ岡開墾場でのPR、海外マーケティングとブランド構築を行い、海外での企画展示や首都圏等での販売促進事業を行った。また、平成30年から中山間地域の廃校を利用した実証事業を実施するとともに、地域住民や高等教育機関が連携し養蚕再興に取り組んだ。



松ヶ岡開墾場4番蚕室
「シルクミライ館」

●絹産業の「普及啓発」に係る取り組み

日本遺産「サムライゆかりのシルク」の構成文化財である松ヶ岡開墾場の歴史的建造物を拠点に、平成28年に40年ぶりとなる蚕室での養蚕展示、平成29年にkibiso等の絹織物展示・製品販売、平成30年に歴史展示のリニューアルが実施され、絹産業の歴史文化的価値の普及に取り組んでいる。令和3年度は本市近代化の礎となった絹産業の歴史を学ぶことができる施設として、松ヶ岡開墾場4番蚕室を絹織物体験施設として整備した。



kibiso shop
(松ヶ岡開墾場4番蚕室内)

また、市内幼・保育園から高校等における蚕飼育体験を10年以上継続し、シルクをテーマとして取り組む高校生等の研究活動へ支援した。鶴岡中央高校では、被服を学ぶ生徒がシルクドレスを製作し、「シルクノチカラ」で研究成果の発表を行った。令和4年度には、蚕糸技術の普及と継承、社会ニーズに根差した蚕及びシルクの用途拡大と関連産業の発展等を目的としたシルクサミット2022in鶴岡が開催された。



シルクノチカラ2022
(シルクガールズコレクション)

③ 自己評価

行政・民間・地域が協働し、絹織物の一貫生産工程（養蚕・製糸・製織・精練・捺染）を活かした取り組みが継続され、鶴岡のシルクのブランド化が展開された。また、蚕飼育体験や日本遺産事業を通じた絹産業の歴史文化の普及が進み、高校生等を中心としたシルクの創造的活動が取り組まれるなど、歴史的風致の維持とともに、貴重な地域資源として次の世代へと引き継がれる機運が醸成された。

④ 今後の対応

鶴岡の絹産業の歴史と文化を守り、次世代に伝承するため、引き続き、市民・地域・企業・教育機関・行政が連携し、絹産業を背景とする歴史的風致を活かしたまちづくりを推進していく。

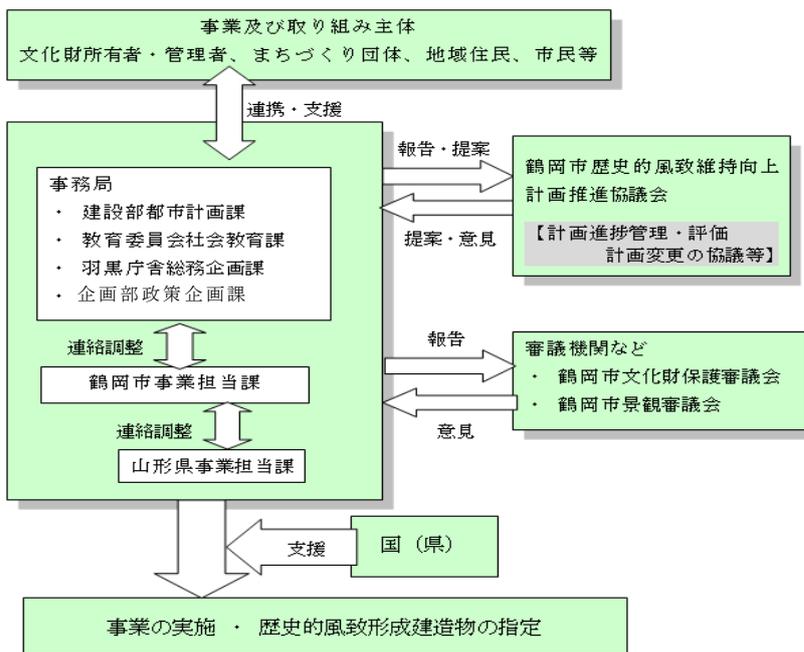
市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
------	-----	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化

本計画の実施にあたっては、歴史まちづくり法第11条に基づく鶴岡市歴史的風致維持向上計画推進協議会を中心に、計画の進捗管理・評価などの計画推進に係る事項や計画変更の協議などを行っている。

本計画の推進体制の事務局は、建設部都市計画課、教育委員会社会教育課、羽黒庁舎総務企画課及び企画部政策企画課が担い、年に数回定例会を行っている。その他、事業の適正な執行と国庫補助金制度との調整など必要に応じて、随時連絡を密にし進めている。

また、多面的な視点から事業推進を図れるよう体制を強化するため、観光部門担当部局も加わることとし、施策の横断的な展開も踏まえ、庁内の情報共有や意見集約を行っている。



第10回推進協議会

② 庁内の意見・評価

（歴史的風致維持向上計画推進会議（庁内会議）からの意見・評価）

- ・羽黒松ヶ岡地区の松ヶ岡開墾場などの日本遺産と連携して情報発信し、これからたくさんの人々が訪れる場所となることを期待している。
- ・羽黒手向地区の空き家数は把握しているのか。宿坊街の街なみ修景整備促進事業を行ううえでも空き家は問題になってくる。
- ・空き家対策は重要で、観光資源として魅力的なものをつくるうえで非常に重要な視点である。
- ・歴史的建造物の調査に関連して、未指定文化財の中でも、文化財指定までは至らないが街なみ形成に寄与するような歴史的な建物をまちづくりに有効に活用できないかなど、関係課と方策や支援のあり方について検討していきたい。

上記の意見・評価を踏まえ、今後も歴史的建造物の保全・活用と継承を図るため、必要に応じて観光部局のメンバーも追加するなど検討していく。現計画策定から10年が経過していること、空き家対策などの新たな課題も生じていることから、令和5年度以降も引き続き協議を重ねていく。

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
<p>① 住民意見</p> <p><u>（酒井家庄内入部400年記念講演、徳川宗家と「徳川四天王」による座談会の意見）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・400年の長い歴史や伝統文化を守ってほしい。 ・滅多に聞くことのできない貴重な話を聞くことができた。地元鶴岡を見つめなおすことにもあり、誇りを持つ町だと改めて実感できた。 ・庄内がこんなにすばらしい地域だと思っていなかった。当たり前だと思っていたことがそうではないと思った。 ・歴史のつながりを感じ、参加できてよかった。 ・LIVE中継するなど広く啓発・配信してほしい。 ・歴史ある鶴岡は素晴らしいと思う。これからも継承していくことが大事だと思う。 ・酒井家と歩んできた400年。郷土愛をさらに育てていけたりと思う。 ・鶴岡市、酒井家、徳川家、本多家、榊原家、井伊家のつながりがますます発展し、きずなを深めていただきたい。 ・本郷先生のお話が大変おもしろかった。様々な方々から関わっていただき、お祝いいただけることを鶴岡市民として誇らしく感じた。 ・歴史について知る機会があるのはとてもよい企画と感じた。 <p><u>（地域住民主導の取組みに対する評価）</u></p> <p>手向地区自治振興会が中心となって行った黒板塀の塗り替え作業、休憩用ベンチづくり、宿坊街提灯ロードなどの新たな魅力づくりが評価され、令和3年度第17回住まいのまちなみコンクールで「住まいのまちなみ賞」を受賞した。</p> <p>受賞を契機とし、歴史的景観の保全・承継に対する住民意識がさらに高まっている。</p> <p>詳細は、「波及効果別シート II 住民主導による歴史的資源の周知活動の推進」を参照。</p>			
<p>② 協議会におけるコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安倍家住宅が令和5年1月に文化財に指定された。屋根の状態があまり良くなく、私有地の回収は難しいと思う。城下町としてこうした武家屋敷を残していくために市が買い上げたりすることも必要になってくると思う。外から来た人たちが理解できるような活用をしていただきたい。 ・鶴岡公園脇の道路は、歩道は広いが車道が狭く通るのが大変である。 →道路の整備前と比べても道路の幅員自体は変わっていない。無電中化も実施し、片側の歩道は広がったが車道は整備前と同じであるが、歩道と車道の間ポールを設置したことで、車で通行するときに狭く感じるのではないかと推測する。当該道路は歩行者自転車、観光客の利用も多いことから、歩行者等の安全確保も大きな整備の目的である。 ・効果の測定として「外国人延べ宿泊者数」があったが、歴史的風致のある地域に住んでいる人の満足度のような評価も欲しい。 ・観光・災害防止の観点から無電柱化の実施区域を広げていく必要がある。未整備地区の現状にも触れてほしい。 ・空き家・空き地の活用で休憩所・駐車場スペース設置となるのではないか。 ・祭りの後継者が問題でまちの存続が危うい。移住者やまちを出ていった人たちの協力も仰がなければならない。 ・羽黒手向地区は「あたたかく受け入れるまち」古来からの特色を生かして少子高齢化に負けないう気概を持ちたい。 			

市町村名	鶴岡市	評価対象年度	H25～R4年
<p>① 全体の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点区域のエリア外においても歴史的に価値のある建造物が各所に点在しており、歴史的風致のエリアも重点区域のエリアの外が風致の範囲になっているものもある。歴史的な建造物の保存活用とそれと一体となった人々の活動を継承していくは歴史的風致の維持及び向上を図るためには、重点区域の設定について見直しを検討する余地がある。 ・民間所有の歴史的な建造物の保存修繕においては、助成制度の活用により負担軽減が図られているが、経年劣化が激しく、その構造や意匠の特殊性から維持管理負担が大きいと、存続が困難になってきている。 ・民俗芸能等の伝統文化や技術等については、少子高齢化と人口減少の一層の進展、意識の多様化による歴史的・文化的資源への関心の希薄化等もあり、そそれの担い手不足が懸念され、次世代への継承が困難になってきている。 ・歴史的建造物及びその周辺では、道路の修景整備や公園・広場の整備などにより、良好な景観と歴史的な街なみ形成が図られてきていることから、今後も継続してより質の高い歴史的・文化的資源と良好な景観形成への配慮を検討していく必要がある。 ・少子高齢化や人口減少の進展のほか、空き家や空き地の増加、コロナ禍による外国人も含めた観光客の減少など新たな課題も生じているが、平成28年以降の3つの日本遺産の認定、松ヶ岡開墾150年や酒井家庄内入部400年の節目を契機として、本市固有の歴史的風致の維持及び向上を図るためには、重点区域を中心とした継続的な事業・施策の展開と新たな事業・施策を検討していくことが必要である。 			
<p>② 今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現計画の進捗状況の適正な把握と評価検証を行う。また、財政難やコロナ禍、資材高騰等により完了していない事業や遅延となっている事業もあり、これらについては引き続き事業内容の精査を行っていく。 ・現計画の重点区域外の歴史的な建造物の消失や歴史的な風致を醸し出す街なみ形成を図るため、必要に応じて、重点区域の追加・拡大について検討していく。 ・歴史的建造物について、公助による建造物の保存には限界があることから、リノベーションによる建造物の活用促進も含めた検討を行い、歴史まちづくりシンポジウムなどの啓発事業や専門家による講演、先進地の事例照会など、市民や建造物所有者等と一体となって歴史と魅力あるまちづくりの理解醸成と啓発を図っていく。 ・民俗芸能等の伝統文化の継続的な継承を図るため、情報交流や発表の場などの機会の創出を継続し、担い手のやりがいや伝統文化の歴史的風致上の価値等について、広く市民の認識を深めていく。また、教育機関等との連携も密にし、未来を担う子どもたちへの伝統文化の周知や参加を積極的に促し、次世代にわたる継続的な継承を図っていく。 ・現計画の評価検証、重点区域の見直し、歴史的風致の精査等を踏まえ、令和5年度からの次期歴史的風致維持向上計画の策定に向け関係機関と協議を重ねていく。 ・本市では市全域を対象とした「鶴岡市景観計画」と関係条例により良好な景観を保全してきたが、昨今の再生可能エネルギー導入の取組み、重点地区内における貴重な歴史的・文化的資源を保全・活用した景観形成を図るため、景観計画の見直しを検討していく。 			